令和３年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和４年３月２８日
函館市立千代田小学校

１　本年度の重点教育目標

「豊かな心」をもち　努力する千代田小の子ども

２　本年度の取組の重点

１　維持機能と創意工夫機能の調和　２　子どもの学習意欲の高揚と学習習慣の定着を目指した授業改善の推進　３　生徒指導の機能を生かした学年・学級経営の確立　４　個性を磨き合う集団づくりの推進　５　ユニバーサルデザインを意識した教育活動　６　自らを律し、相手の立場を思いやる道徳教育の推進　７　自他の生命を尊重し、健康で安全に生活する子どもの育成　８　受発信の有効性と確実性を高める連携・協力体制の強化　９　教育活動の改善を支える研修活動の充実　１０　円滑な学校運営に向けた全教職員の個性・能力の発揮と連携・協力　１１　施設・設備、教材・教具の点検・管理・保管等の作成　１２　地域とともにある学校づくり

３　自己評価結果に対する学校関係者評価

分　野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①確かな学力を育む教育の推進	ＩＣＴ機器を活用し，個に応じた指導や主体性，対話性を意識した学習活動を取り入れ，意欲的な学びの保障と学力の確実な定着を図る授業の展開に努めている。	a	・今後も、ＩＣＴ機器を活用した授業改善に、全校体制で取り組むようにする。	A	A	・市内ほぼ全小中学校で、見切り発車的なタブレット端末導入であった。十分な研修や誰でもわかりやすい端末の使い方など、市教委中心とした研修や人材育成を期待したい。
	家庭と連携した学習習慣の確立や学力向上の取組に努めている。	b	・家庭と連携・協働した家庭学習習慣の定着の具体策の明確化を図る。学級経営交流会、懇談会等の中で、協議する。	A	A	・コロナ禍が長引く中、連携協働が難しいが、一歩通行にならない工夫。 学習習慣の確立は家庭との連携なしには考えられない。これからも家庭との強い連携を望む。
②豊かな心を育む教育の推進	いじめの未然防止，早期発見，早期解決など，一人一人に寄り添った指導に努めている。	a	・日々、早期発見・早期解決の意識をもつ。	A	A	・担任外の先生や支援員等を活用して、ふだん見過ごしがちな子どもたちの様子や変化を複数の目で見ていくことを重視したい。
	道徳の時間を要として，豊かな心を育む教育の充実に努めている。	b	・日常実践と研修の成果を生かし道徳の授業を充実させ，豊かな心を育む。	A	A	・道徳の授業充実の他、学年学級をこえた取組を進めていただきたい。 ・道徳で学んだことを特別活動や普段の生活の中で、どのように実践しているか、子どもたちの変容を見届けたい。
③健やかな体を育む教育の推進	子どもの健やかな体力向上に努めている。	a	・外遊びの奨励を継続する。	A	B	・外遊びの奨励とともに、放課後の過ごし方にも目を向け、アフタースポーツやその他の社会教育活動の啓発もお願いしたい。
	新型コロナウイルス感染症や自然災害等に対する適切な危機管理のもと，子どもの健康や安全の意識を高める取組に努めている。	a	・家庭との連携・協働を強化する。学校だより、学級だより等の中で啓発する。	A	A	・きめ細かくとてもよくやっていると思う。 ・安心メールやお便りで事前によく啓発されている。
④多様なニーズに対応した取組の充実	特別支援教育の充実に向け，相互理解と校内体制の充実に努めている。	b	・特別支援委員会の時間確保を図る。日課の工夫、協議内容の事前周知、具体策の明確化を図る。	A	A	・支援の必要な子どもたちの増加に伴いながらも、できることをしっかりやっている。 ・特別支援教育がとても必要な時代となっています。
⑤家庭・地域との連携・協働の推進	コロナ禍のもと、家庭・地域との連携を深め，情報交換や交流に取り組んでいる。	b	・感染症、自然災害等の危機管理を徹底し、各方面との連携を適切に推進する。	A	A	・学校通信がメール等で送付されてくると、様子がわかりやすい。 ・集まることが難しい中、情報交換の方法を考えたい。
⑥学校における指導体制等の充実	日常の授業改善のために校内研究や研修に努めている。	a	○日々の教材研究・教材準備等の時間を確保し、日常の授業改善を図る。	A	A	・改善策の通りだと考える。
⑦函館への愛着や誇りを育む教育の推進	地域の特色や人材を生かした体験活動や学習を展開し，ふるさとに誇りをもてる活動に努めている。	b	○感染拡大防止を徹底する中で、計画的に体験学習等を設定する。	A	A	・コロナ禍が長引く中、地域との交流も難しいがパトロール等会えたときには、子ども、先生、地域のからみが必要。 ・コロナ禍の中、キャリア教育等を推進するためにも体験学習を進めてもらいたい。

■　自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた	（８割以上）
b	概ね達成できた	（６割以上）
c	十分ではない	（４割以上）
d	達成できなかった	（４割未満）

■　自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。